

工学院大学主催
第9回 高校生の建築フレッシュ・アイデア・コンペ

文の部門 審査員特別賞

『Revival Village』～集落の再生～
静岡県立富岳館高等学校 石川裕真さん

『Revival Village』～集落の再生～

現在私達が住む日本は、人口減少や少子高齢化という問題を抱えている。
その中で過疎化地域や限界集落が増えてきている。
私が住む地域も、山に近い地区になると家がポツポツとまばらにあるという印象だ。
これからさらに深刻になるだろう少子高齢化社会で人口が減少しても「住み続ける
ことのできるまちづくり」を提案したい。

1 はじめに

現在、日本で多く建てられている木造住宅の平均寿命は30年程度と言われている。その一方で、農家などでは、明治時代に建てられたものが残っている。私たちが長く「住み続ける」ことができる家やまちを考える上で重要なことは、新しい材料や工法を考え、生み出していくことも必要かもしれないが、日本の風土に合った家やまちを考えていくことが重要ではないかと考える。少子高齢化の時代に、人口が減少しても住み続けられる「まちづくり」について提案します。

2 私たちと私たちの子どもたちが生きる時代

2016年7月の人口（概算値）は1億2699万人である。2004年の1億2784万人をピークに減少している。少子高齢化と言われ、出生率の低下や若年人口・生産年齢人口の減少、高齢人口の増加が主な要因と考えられている。この問題に対して様々な対策が行われてきているが、この大きな流れが変わっていない。2050年には9515万人（高齢化率39.6%）、2100年には4771万人（高齢化率40.6%）と明治時代後半程度の人口にまで減少していく見込みである。また、2200年には、1000万人を下回るという予測もあり、室町時代と同じ位の人口にまでになる。さらに、3200年には日本が消滅するという予測までである。

産業が発達した現代で、生活の水準や質を変えていくことは難しい。

しかし、2100年に住み続けられるまちづくり、2200年に住み続けられるまちづくりを、歴史を見て、消して昔に戻るのではなく、その当時の人口を参考に、同じ人口で支えられる仕組みを考えなければいけないと思う。

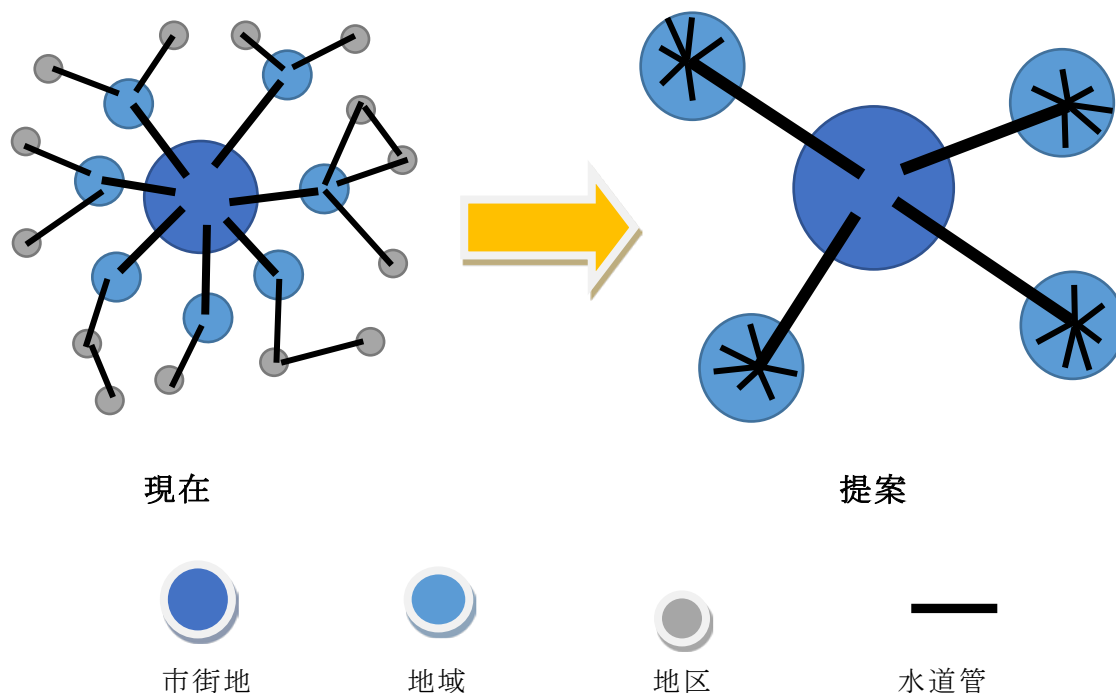
人口減少に伴い、世界から外国人を多く受け入れる考え方にもあるが、日本語という大きな壁がある。文化の違いという問題も生じると思われる。

3 ライフラインの問題

日本に住む人が、生活水準を変えずに住み続けるには、ライフラインの確保が一番の問題になる。電気とガスは民間企業を行っているが、水道は市町村が管理をしている。現在、水道管の更新時期・耐用年数の問題がある。今後、人口減少により、税収が減っていくことから、現在の水道管のネットワークを維持していくことは難

しいと考える。しかし、水道がなければ、井戸を掘ったり、川から水を汲んだりする必要があるが、実際には解決策にならない。水道管は40年で交換時期と言われている。今後も必ず、交換が必要になる、水道管の総延長距離を短くすることにより、人口減少後も支えられる水道管のネットワークが必要である。

そのためには、広がりすぎた住居地域を小さくまとめる必要がある。(図)



4 住宅の問題

現在の住宅の問題として、「空き家問題」が挙げられる。実際、空き家をよく見かける。住み続けていないのはなぜか？

また、住宅の寿命を見てみると、日本27年、フランス86年アメリカ103年、イギリス141年と日本の住宅があきらかに短命となっている。原因は、家へのこだわりの低下やハウスメーカーによる安さ・早さばかりを追求してきたからだと考えられる。そして、消耗品のように量産されている。

日本では、家を購入した場所に長く住み続けるはずだ。そんな日本だからこそ、孫の代まで住み続けられる家が必要だろう。

昔の日本の住宅は100年以上維持することも珍しくなかった。少し値段がたかなくても日本の風土に合った構造材を使えば自然に長く住めるだろう。

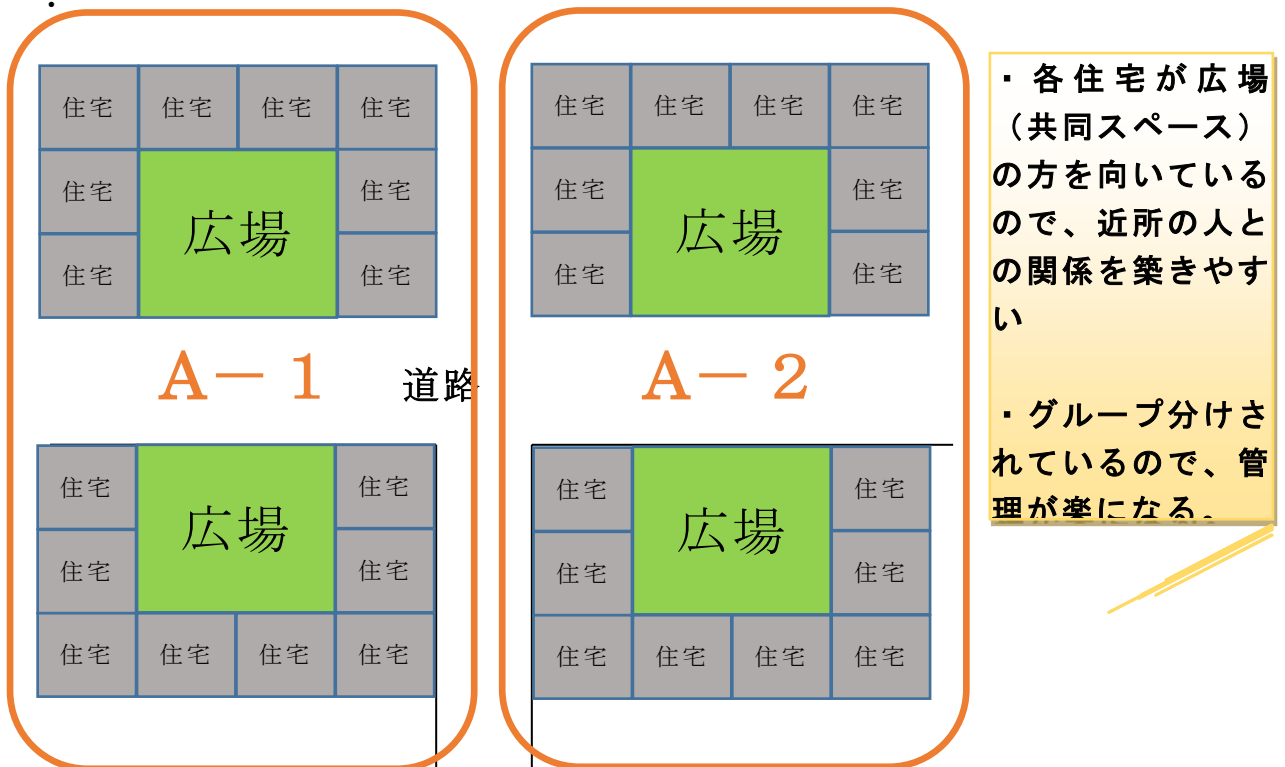
5 長く「住み続ける」提案

日本には古くから集落がある。集まって住むことにより、地域コミュニティもしっかりと機能していた。農村では、田植えや稲刈り、冠婚葬祭など協力し合っていた。都市部でも、井戸端会議があったり、親の代くらいまでは醤油の貸し借りもあったり、したようだ。

この頃は、昔からその地域に住んでいて、お互いが顔見知りということがあり交流があったのだと思う。しかし今は違う。地域の概念が大きく広がりすぎていて近い近所さんへの意識が薄くなっている。また、住民同士の繋がりが希薄になることで、祭りなどの年中行事も継続困難になり、地域文化が衰退してしまいます。

そこで私は、バラバラに広がってしまっている住居地域を小さく集める「Revival Village 計画」を提案する。「Revival Village 計画」は、言葉の通り昔のような集落を再生しようというものである。

- ・ 近所付き合いも無く、ポツポツと点在する家を集める。
- ・ 広場や公園の周りに家を建てていき、家はその広場の方を向くようにする。
- ・ グループをつくって整理する。



6 考察

広場では、子どもたちが鬼ごっこやサッカーで遊ぶことができる。奥さんが買い物に行くときに子どもを遊ばせておけば、周りの人達が見守ってくれる。一人きりだったおじいさんやおばあさんが毎日顔を合わせて話すこともできる。

雨の日には、おじいさんおばあさんの話を聞きに、子どもたちが家を訪れることもできる。

近所付き合いが自然にできるようになり、絆も生まれるだろう。高齢者の孤独死や子どもの事故、犯罪を防げるかも知れない。

また、居住地域がまとまることで水道管や電線が無駄に遠くまで繋ぐ必要がなくなるので、ライフラインを効率的に確保することができる。